

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 3 月 15 日

事業所名 いろ縁びつじい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階と2階を使ってスペースの確保に努めている	
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	職員間で意見を出し合い、環境整備に取り組んでいる	徐々に危険箇所に対するアプローチを進めているが、不十分な部分もあるため改善を進める
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、清掃等に取り組みフロアマットやフロアカーペットを設置して対応している	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月間活動計画を設定して各職員が計画に基づいて業務を進めている	振り返りが出来ていない部分もあったため、朝礼を行い振り返りの時間を作っている
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時や面談時に保護者様と意見交換を行い、日々の支援の改善への繋げている	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		縁グループのホームページにて実施	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		施設内での研修を行ったり、Zoomを活用した研修に参加している	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		面談を行い、保護者様の意向や主訴を元に個別支援計画の作成に取り組んでいる	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		研修を通して学んではいるが、本格的に事業所として適応できてはいないので今後積極的に進めていく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画作成後、職員に周知を行い計画に沿って活動設定を行っている	一人一人についての話し合う機会をもっと確保していく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		主任が中心となり、必要に応じて意見を聞いて立案を行っている	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		今までの活動を確認しながら固定化しないようにしている	固定化が進まないようにプログラムの立案について各職員が中心となるような仕組み作りを進める
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		定期的にケース会議を開くなどして調整を行っている	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼の時間を使って一日の流れを確認したり、日案を元に事前に共有できるようにしている	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	送迎時間の関係もあり、終礼を行っていないため次の日の朝礼時に前日の振り返りも行っている	支援終了後に振り返りができないか再度検討をしていく
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録の記載を行っている	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者様との面談時に見直しが必要かどうか確認しながら支援計画を作成している		
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者や児発管が参加。事前にケース会議等で情報共有をした上で連携をとっている。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と日々の様子について定期的に連絡をとっている	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と連携をとりながら支援を行っている	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月15日

事業所名 いろ縁びつにじいろ

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	保護者様や主治医と緊急時の対応について確認をしたり、医療情報の確認を行っている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	引き渡し時に様子などを確認したり、情報共有を行っている。必要に応じて併用されている保育園や幼稚園とも連携をとっている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	引き渡し時に様子などを確認したり、情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	電話等で連携はとることができている	研修等を受けられていないので、積極的に情報収集を行い参加できるようにしていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	戸外活動の際に一緒に遊ぶことができている	保育所や幼稚園等との交流については行えていない状況なので、情勢を見ながらまずは幼稚園等との連携を図る
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	開催時には参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳でやり取りをしたり、送迎時に情報共有を行っている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		ペアレントトレーニングについて職員がしっかりと学び、保護者様にとって必要な支援を行っていく
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に保護者様に確認しながら説明を行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	日々の連携や面談等を行い、支援計画の内容について丁寧に説明をして同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時等にお話を聞いて、必要に応じた支援を行っている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今後、情勢を見極めながら検討していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	相談等があった場合、すぐに職員間で共有をして協議を行い対応を行っている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	おたよりやブログの更新、アルバムなどで伝えている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	鍵付きのキャビネットを使用して保管を行っている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	伝え方に配慮をして気持ちを受け止めるようにしている	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		情勢を見ながら、社会性の向上にもつながるように実施を検討していく	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	月に一回程度、火災・水害・不審者等で条件を変えて訓練を実施している	マニュアルの周知については面談時などに改めて保護者様に伝えていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	避難訓練を定期的に行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	契約時に状況を確認して、必要に応じて書面等で情報を得ている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	事前に情報共有を行い、アレルギー一覧を作成して掲示している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットが発生した際に書面に話し合いを行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止研修を施設で行っている	新しく職員が入った時にはその都度行えるとうい
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	必要な場合には、事前の了承をもらうことと支援計画への記載を徹底している	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。